

ジェットfoil減便説明会を開催

8月18日、上対馬総合センターで、九州郵船による、ジェットfoil減便の説明会が開催され、約300人の住民が参加しました。

九州郵船の経営状況、減便検討に至るまでの経緯など、比田勝発着便（対馬 - 博多間）の運休を行う案が説明されました。これに対し住民からは、生活ルートが途絶えるなど、強い反発意見と継続運航を求める声が相次ぎました。



峰地区消防団夏期訓練

8月17日、対馬市峰地区消防団夏期訓練が行われました。消防団の団結と分団相互の連携を図るため毎年実施されているもので、8分団、総勢141名の消防団員が対馬市消防署峰出張所職員の指導のもと礼式訓練、実践訓練を実施しました。消防団員の皆さん、これからも市民の生命と財産を守るため頑張ってください。



年中無休 午前7時～午後7時まで
代表 阿比留保弘 080-6433-9576

豆酛に産直の駅がオープン

厳原町豆酛の旧小学校前に、手作りの野菜や果物など地域の特産物を販売する「産直の駅」がオープンしました。

お店を始めたのは豆酛出身の阿比留保弘さん（46歳）で、高校を卒業後、関東でインテリア関係の仕事をしていましたが、昨年の4月に地元に戻ってきました。過疎化が進み寂しくなった地元を元気にしようと始めたもので、有名な豆酛みかんは勿論、地区で採れた新鮮な野菜や魚介類など、お店の命名どおり、産地のものが直接販売されています。ぜひ一度、お立ち寄りください。

感動 「九電 ふれあいコンサート」

8月11日、上対馬総合センターで、九州交響楽団による「ふれあいコンサート」が開催されました。

コンサートでは、子どもたちとの合同演奏や、会場のお客さんとの合唱もあり、会場につめかけた皆さんは生のクラシックコンサートに大満足の様子で、フィナーレでは会場全体が拍手の渦に包まれていました。



日韓交流写真・美術展

8月2日、対馬市交流センターで、対馬市と釜山市の愛好家が、「日韓交流写真・美術展」を開催しました。

今回で写真展が11回目、美術展は9回目で毎年交互に開催しています。

作品は、両国の生活風景や生き物、自然などそれぞれ味わいのある多彩な作品が展示されました。

会員の皆さんは、3日から4日に島内で撮影やスケッチを行い交流を深めていました。



「かたらんね市長室」を開催しています

市民の皆さまの生の声を、市長が直接お聞きするため「かたらんね市長室」を実施しています。開催予定は、下記のとおりです。

受付は、随時行っていますので地域再生推進本部までお申込下さい。

市民の皆さまの対馬への熱い想いを是非、市長に語って下さい。皆様の参加をお待ちしています。

平成20年度開催状況及び今後の日程

回数	日 時	開 催 場 所	備 考
第1回	5月27日(火)19時~21時	対馬市役所	4組参加(終了)
第2回	7月1日(火)19時~21時	上対馬支所	4組参加(終了)
第3回	7月15日(火)19時~21時	対馬市役所	4組参加(終了)
第4回	8月29日(金)19時~21時	上県地域活性化センター	3組参加(終了)
第5回	9月26日(金)19時~(予定)	対馬市役所	
第6回	10月24日(金)19時~(予定)	峰地域活性化センター	
第7回	11月末(予定)	対馬市役所	
第8回	12月末(予定)	豊玉地域活性化センター	
第9回	1月末(予定)	対馬市役所	
第10回	2月末(予定)	美津島地域活性化センター	
第11回	3月末(予定)	対馬市役所	

上記日程は、現時点での予定です。変更の可能性もございますので御了承下さい。

問い合わせ 対馬市地域再生推進本部 協働のまちづくり推進グループ 一宮・西川

:0920-53-6111(内線306) FAX :0920-53-6122 E-Mail :tiikisaisei@city-tsushima.jp

シリーズ「人権教育総合推進地域事業」の取組 その

対馬市教育委員会

人権コラム

「知らず知らずのうちに」
サリドマイドで両手を奪われた吉森
こずえさんは、足で次のように書いて
います。

私は、子どもたちに嫌なことを
言われても振り返ってみられても、
決して恨んだことはありませんで
した。

但し、その子の母親たちは軽蔑
しました。母親たちが子どもたち
に、何をすれば、何を言えば、人
の心を傷つけるかを教えるべきだ
と書いていたからです。

「旅立とういま
こずえ二十歳の青春」より

「オギャー」

今、新たな命が誕生しました。親に
とつても、家族にとつてもかけがえの
ない命の誕生です。

この子は実に多くのものを、親から
受け継いでこの世に誕生してきました。
性別・血液型・肌の色・顔かたち：。
ところで、子どもたちは、人を傷つけ
悲しませる心まで親から受け継いで、
この世に生まれてきたのでしょうか。
あどけない赤ん坊の顔を見るとき、そ
れはとも信じられないことです。

では、なぜ、人に嫌なことを言っ
たりする子どもに育っていくので
しょうか。

わが子の、そんな行いに出会った時、
お父さん、お母さんたちの中には、

「こんな子どもに育てた覚えはな
い。」とおっしゃる方もおられるか
もしれませんが、ちよつと振り返つて
みてください。

「子は、親の言うとおりには育た
ないが、する通りに育つ。」と言われ
ます。例えば、

「ちゃんを見てごらん。
それに比べて・・・。」

「勉強しないと・・・。」
のような、人を傷つけながらの教育や
しつけをしてはいないでしょうか？そ
んな子育ての中で、知らず知らずの
うちに、人を悲しませる心が子ども
に注ぎ込まれていくのです。知らず
知らずの教育の背景には、親の生き方
があります。吉森こずえさんは、その
ことを厳しく指摘しているのだと思
います。

お父さん お母さん

子どもたちの心にふと立ち止まり、自
分の生き方や教育を問い直すこと
のできる、そんな親でありたいもの
ですね。

【県PTA新聞コラムいびき】より

平成4年9月10日発行